



# 創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する  
ソリューションデザインカンパニー

2023年3月期第2四半期 決算説明会資料

萩原電気ホールディングス株式会社

(東証プライム・名証プレミア 7467)

2022年12月2日

## 2023年3月期 第2四半期 決算概要

### 第2四半期は2期連続で増収増益となり、過去最高を更新

- 売上高は、顧客の生産が堅調に推移したことや、商流移管および円安等の寄与により、過去最高となった。
- 営業利益は、売上増加に伴う売上総利益の増加や利益率の高い分野の売上が伸長したこと等により最高益を達成した。
- 経常利益、四半期純利益は、為替差益1.9億円や、萩原エンジニアリングの子会社化に伴う負ののれん8.8億円を計上したこと等により、どちらも過去最高となった。

## 2023年3月期 業績予想

### 期初予想から上方修正し、2期連続の過去最高を予想

- 第2四半期までの実績および昨今の業績動向を踏まえ、期初予想に対し上方修正を行い、2期連続で過去最高を更新する見通しとなった。

# 2023年3月期第2四半期決算概要

2023年3月期業績予想

トピックス

# 2023年3月期第2四半期業績

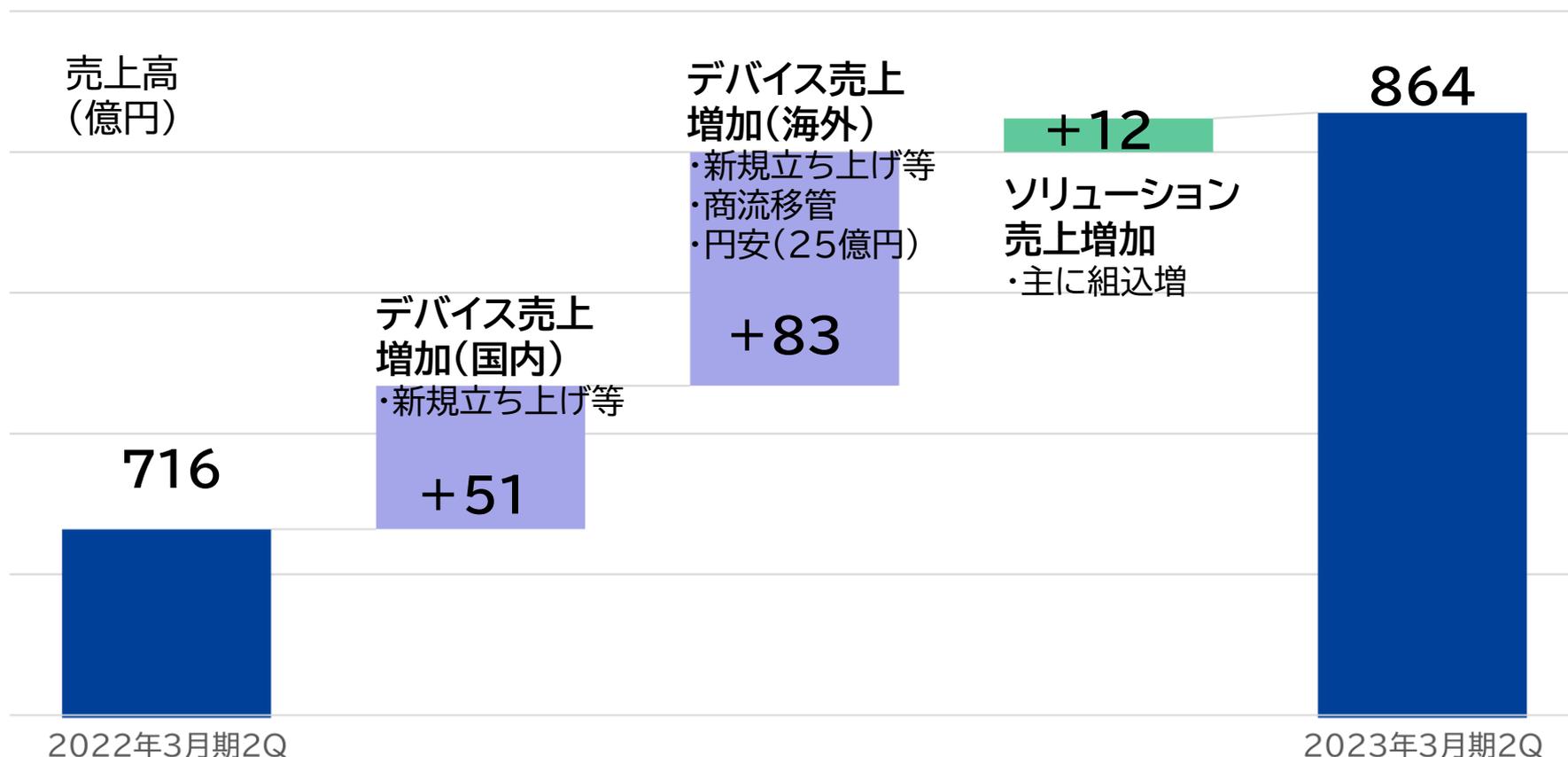
■ 売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益のすべてで過去最高を更新。

(単位:百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	71,604	100%	86,412	100%	+14,808	+20.7%
売上総利益	6,576	9.2%	8,087	9.4%	+1,510	+23.0%
販管費	4,822	6.7%	5,416	6.3%	+594	+12.3%
営業利益	1,754	2.5%	2,671	3.1%	+916	+52.2%
経常利益	1,723	2.4%	2,909	3.4%	+1,186	+68.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,145	1.6%	2,817	3.3%	+1,672	+146.0%
1株当たり四半期純利益 (円)	129.48	—	318.27	—	+188.79	—

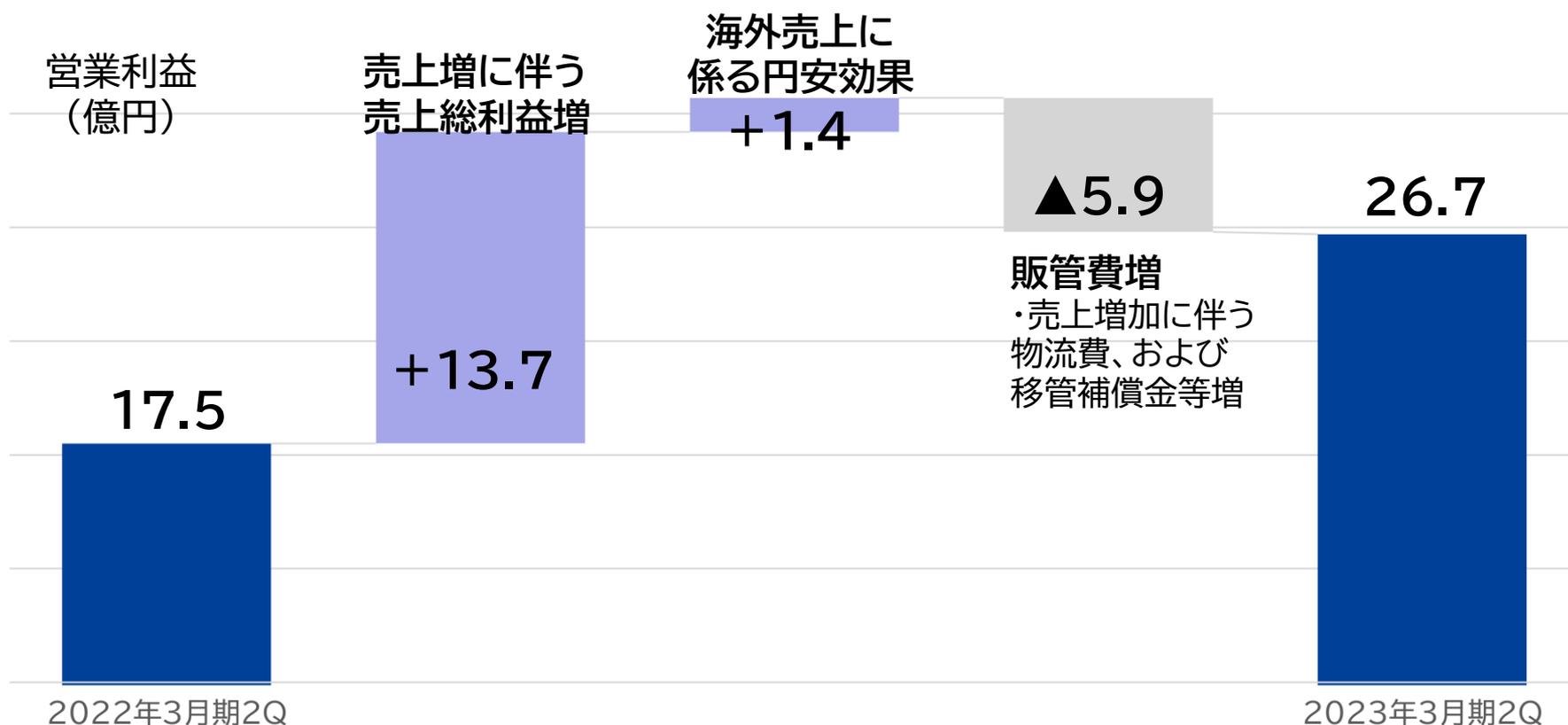
# 売上高の増加要因

- 前年同期比較で148億円(+20.7%)増加。
- 第2四半期に入り、自動車生産が回復基調となったことや、商流移管および円安等の寄与により、売上増加。



# 営業利益の増減要因

- 前年同期比較で9.1億円(+52.2%)増加。
- 売上増加や円安等により売上総利益が大幅に増加した一方、販管費の増加は抑えることができ営業利益が増加。営業利益率は0.6ポイント向上。

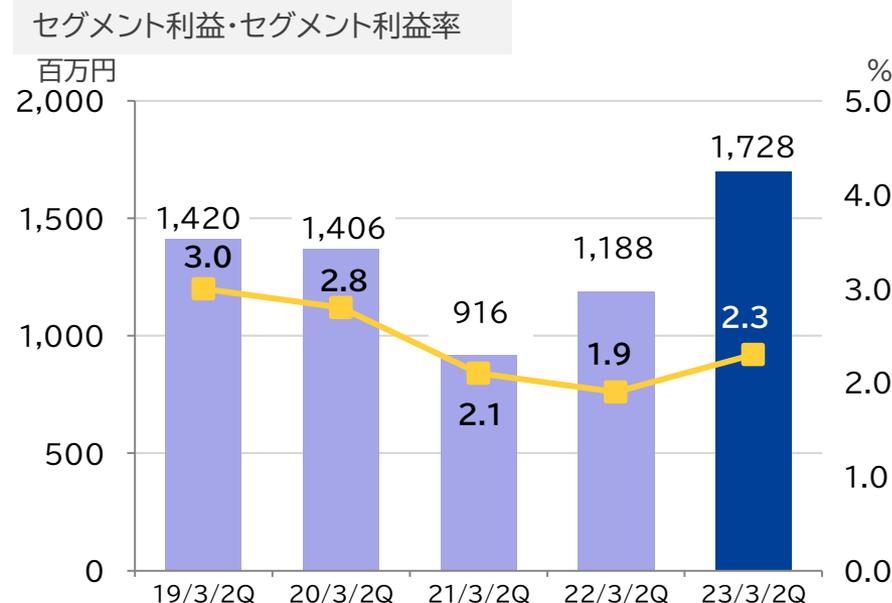
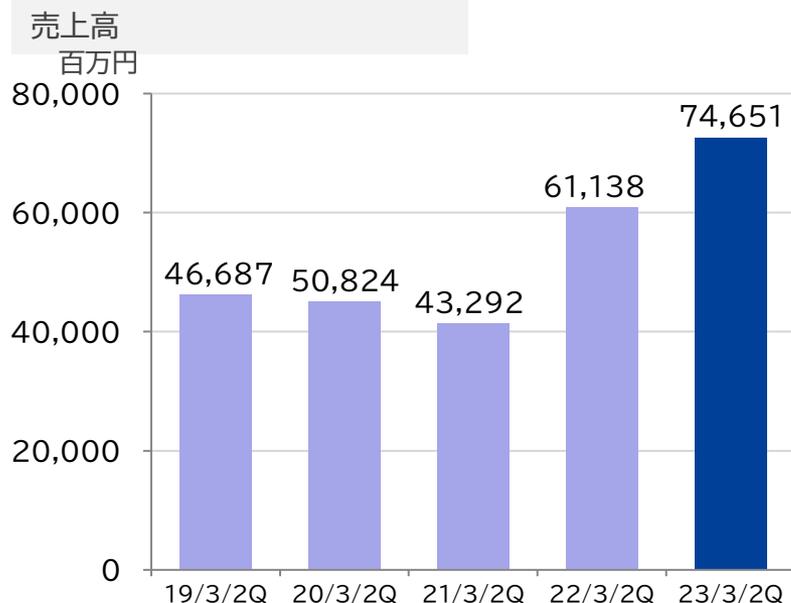


# デバイス事業 業績概要

- 第2四半期以降は自動車生産が回復基調となったことや、商流移管、円安等の寄与があり、売上増加。
- 販管費の抑制等によりセグメント利益率が0.4ポイント向上。

(単位:百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q			
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比	
売上高	61,138	100%	<b>74,651</b>	100%	+13,513	+22.1%
セグメント利益	1,188	1.9%	<b>1,728</b>	2.3%	+540	+45.5%

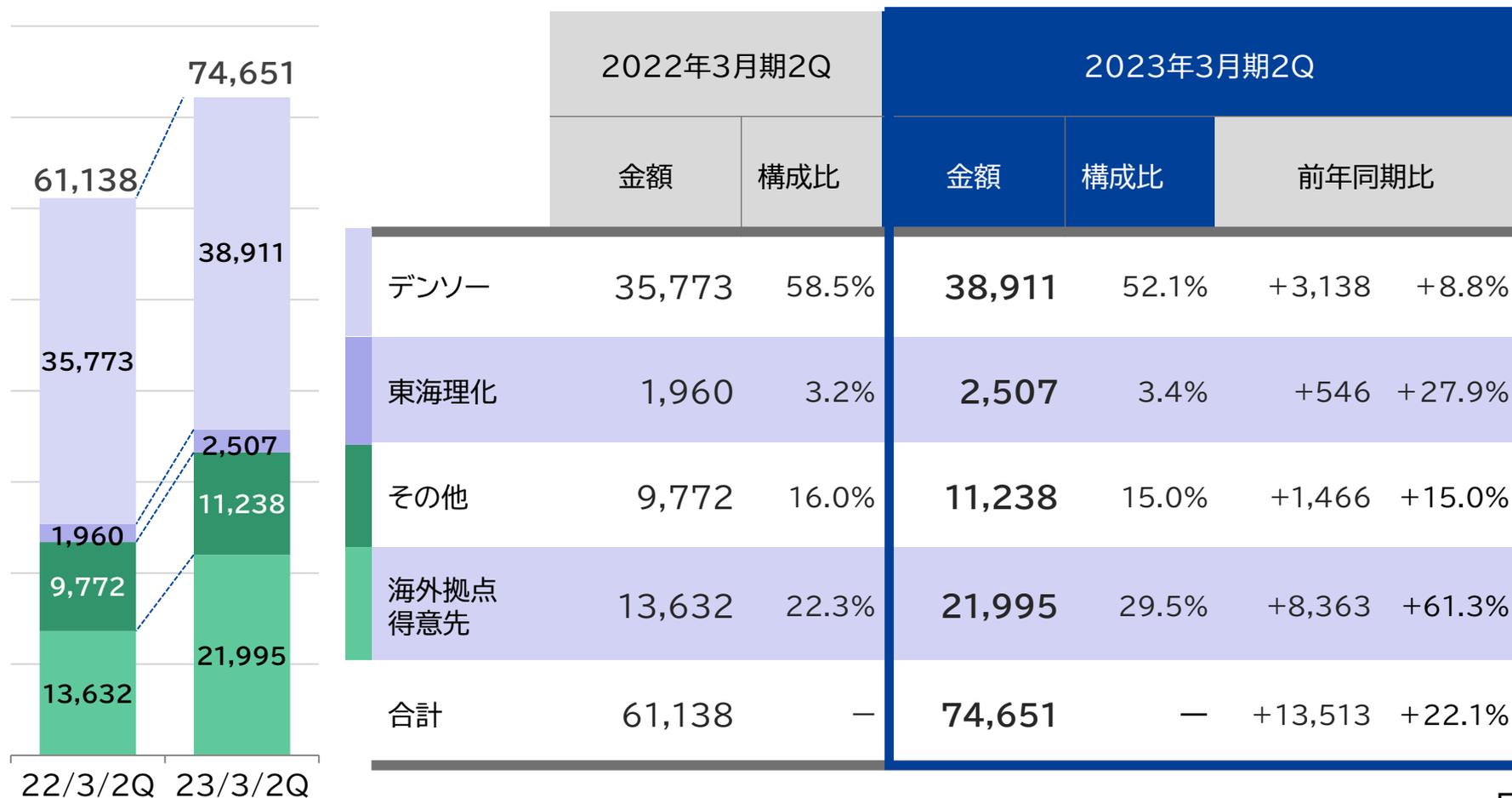


# デバイス事業 得意先別売上高前期比較

■ 第2四半期以降で生産が回復基調となり、累計で売上高が増加。

(単位:百万円)

(単位:百万円)

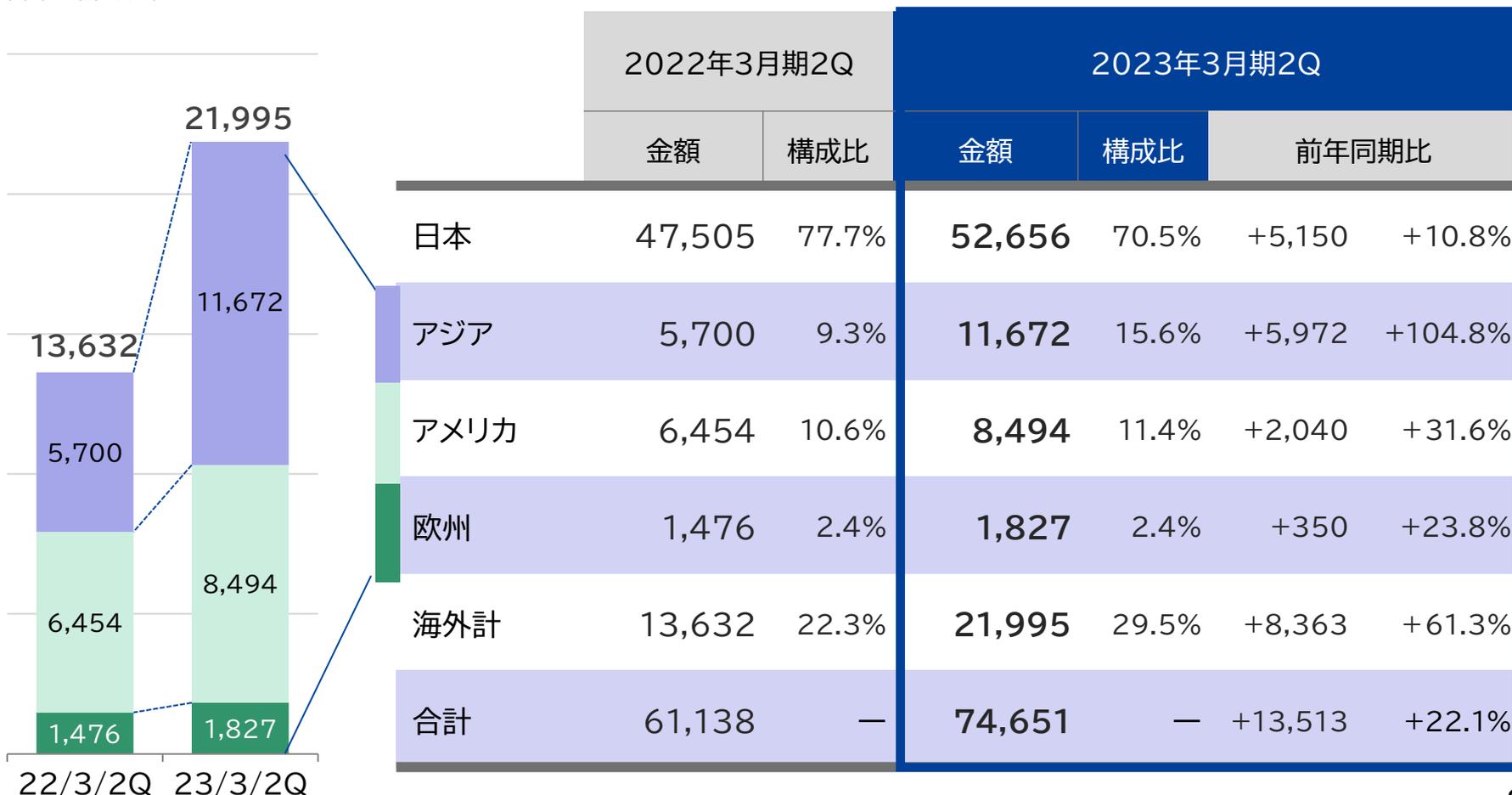


# デバイス事業 エリア別売上高前期比較

■ 国内、海外ともに増加したが、特に海外において商流移管および円安等の寄与により大きく増加。

(単位:百万円)

(単位:百万円)



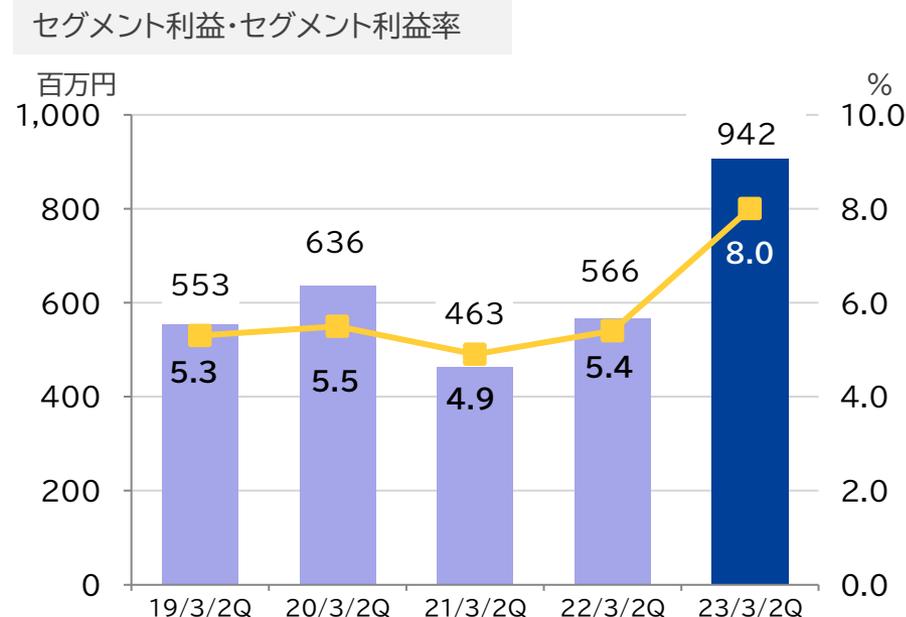
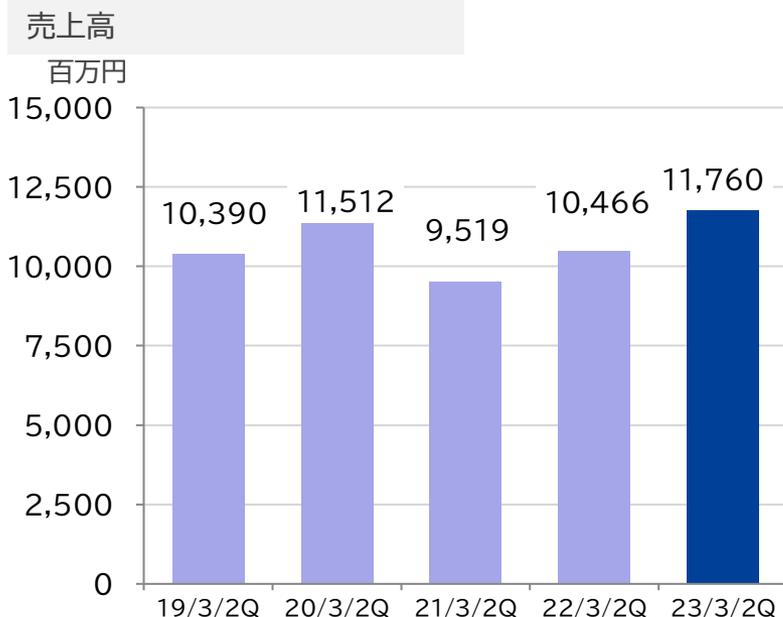
※地域名は拠点の所在地域(グループ内取引は除く)

# ソリューション事業 業績概要

- 顧客の生産が好調に推移したことにより売上が増加。
- 利益率の高い組込の売上が伸び、セグメント利益率が2.6ポイント向上。

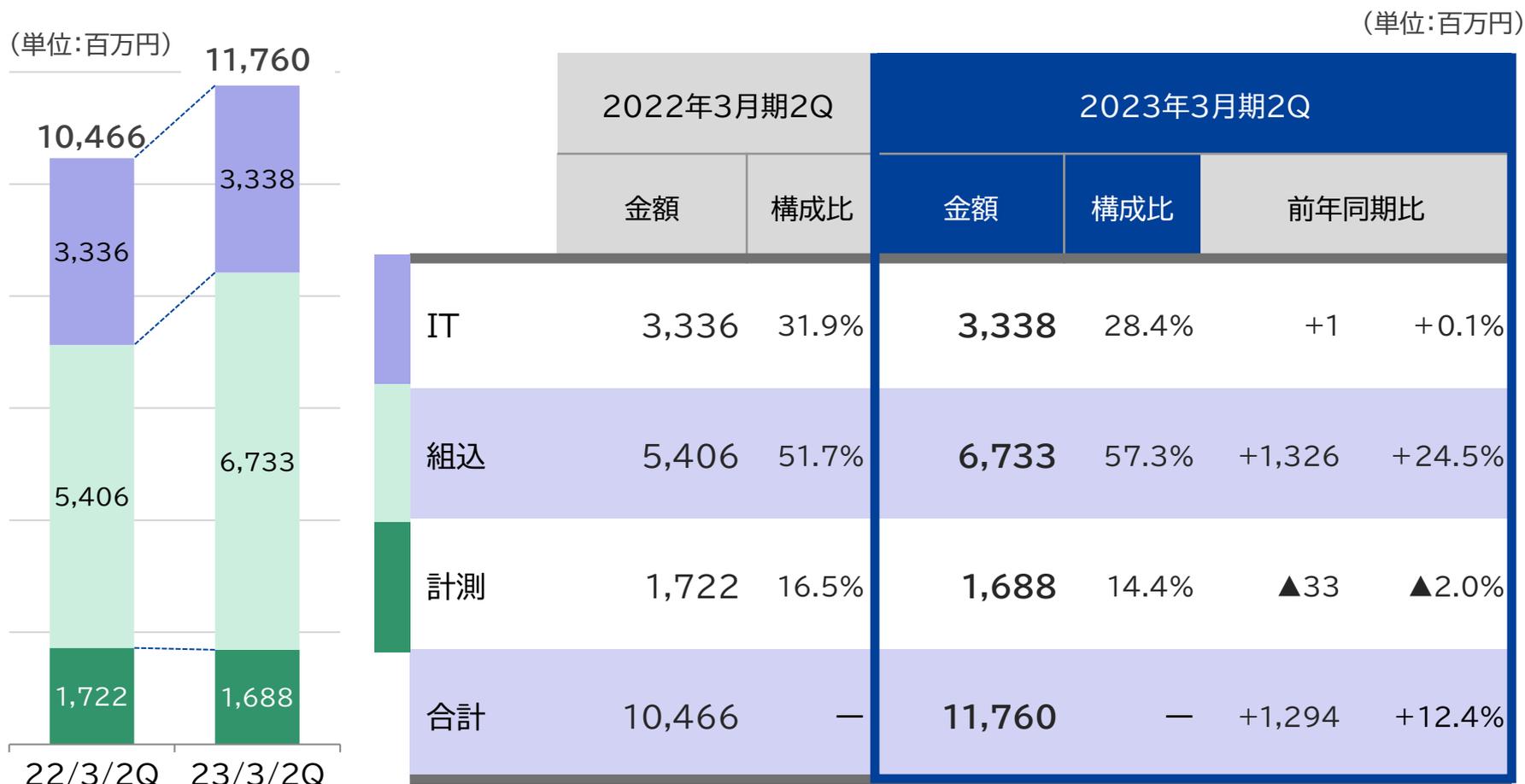
(単位:百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q			
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比	
売上高	10,466	100%	11,760	100%	+1,294	+12.4%
セグメント利益	566	5.4%	942	8.0%	+376	+66.5%



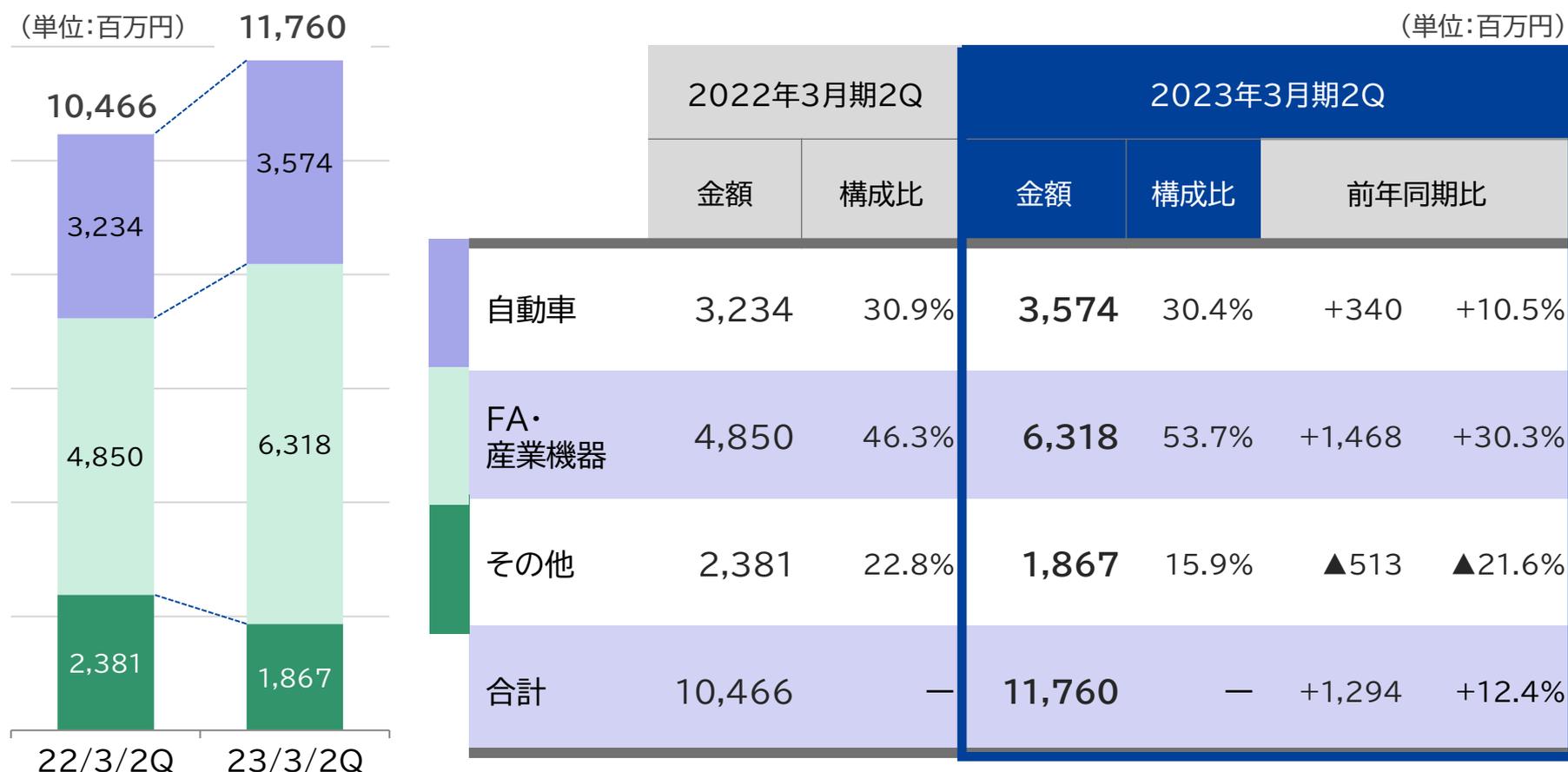
# ソリューション事業 事業別売上高前期比較

- 搬送・半導体設備関連の顧客の生産が好調だったことにより組込分野での売上が大きく増加。



# ソリューション事業 業種別売上高前期比較

■ 搬送・半導体設備関連を中心にFA・産業機器の顧客向けの販売が好調。



# 2023年3月期第2四半期業績

- 営業外収益に為替差益1.9億円、特別利益に負ののれん発生益8.8億円を計上。
- 1株当たり中間配当金は、期初予想より15円増配し60円。

(単位:百万円)

	2022年3月期2Q		2023年3月期2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	71,604	100%	86,412	100%	+14,808	+20.7%
営業利益	1,754	2.5%	2,671	3.1%	+916	+52.2%
経常利益	1,723	2.4%	2,909	3.4%	+1,186	+68.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,145	1.6%	2,817	3.3%	+1,672	+146.0%
1株当たり中間配当金 (円)	40	—	60	—	+20	—

2023年3月期第2四半期決算概要

## 2023年3月期業績予想

トピックス

# 2023年3月期業績予想

- 第2四半期までの実績および昨今の業績動向を踏まえ、期初予想に対し上方修正を行い、2期連続で過去最高を更新する見通し。

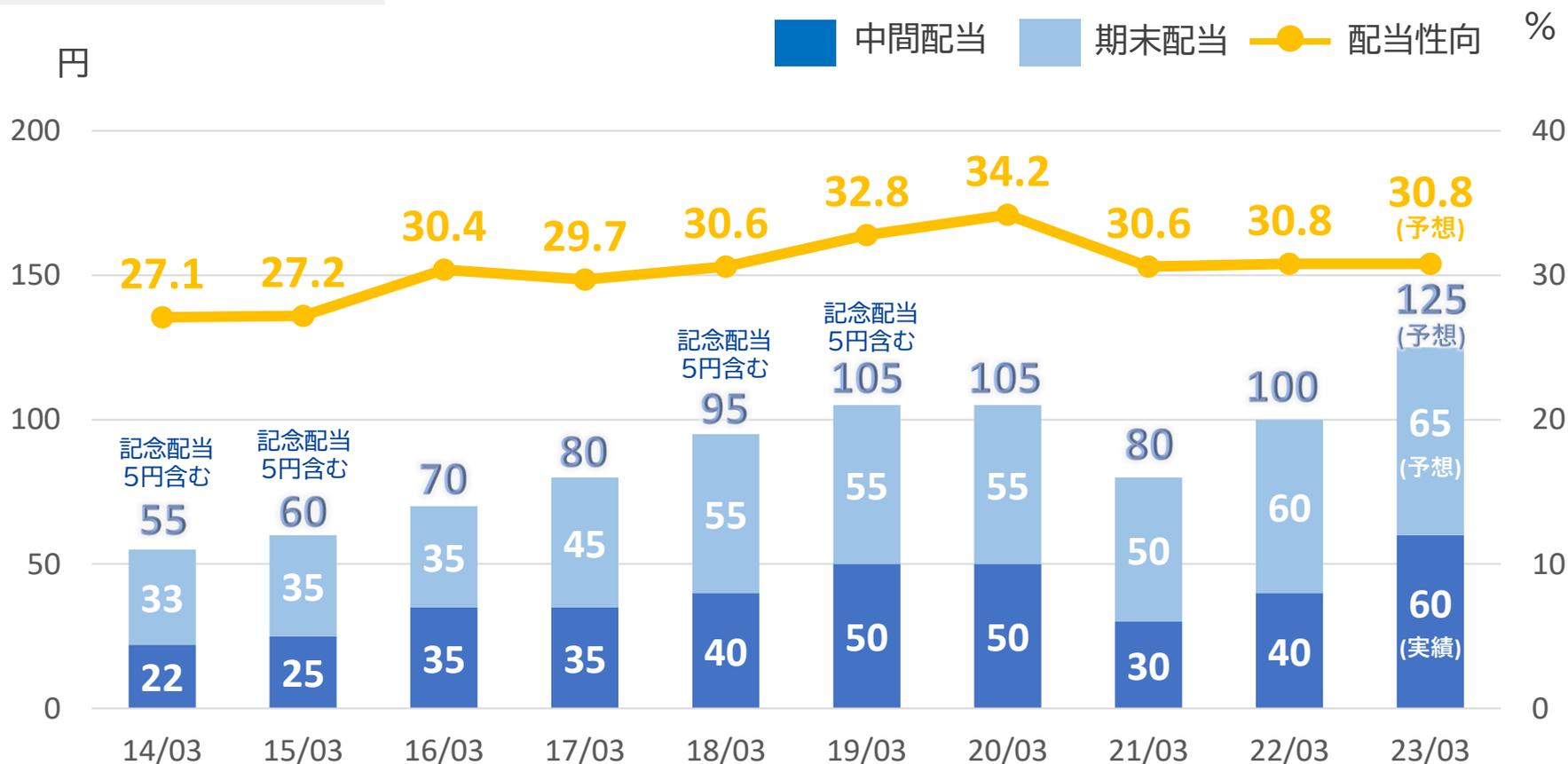
(単位:百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期				
	実績(A)	期初予想 (B) (5月13日)	修正予想 (C) (11月10日)	増減額 (C-B)	対前期 増減額 (C-A)	対前期 増減率 (C-A)/A
売上高	158,427	187,000	<b>189,000</b>	+2,000	+30,572	+19.3%
営業利益	4,356	4,300	<b>5,350</b>	+1,050	+993	+22.8%
経常利益	4,335	4,250	<b>5,200</b>	+950	+864	+19.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,876	2,600	<b>3,600</b>	+1,000	+723	+25.2%
1株当たり当期純利益 (円)	325.07	293.76	<b>406.47</b>	+112.71	+81.40	—

# 株主還元

- 基本方針は配当性向30%を目途とした安定配当。
- 業績好調により、期初予想に対して35円増配し、年間配当125円の予定。

配当金および配当性向の推移



2023年3月期第2四半期決算概要

2023年3月期業績予想

トピックス

# 中期経営計画の進捗

- イノベーションによる価値創造と経営基盤強化により、企業価値を最大化。
- SDGs/ESG経営の社内浸透を図り、中期経営計画に定める重点施策の推進を通じて持続可能な社会の実現に貢献。

## ◇注力領域事業拡大

- ▶車載SoC事業拡大
- ▶DXファクトリー統合サービス市場での価値提供

## ◇グローバルビジネス拡大



## ◇ビジネスイノベーション活動推進

## ◇エンジニアリングビジネス強化



コア事業  
拡大

新高付加  
価値事業  
創出

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

経営基盤強化

環境志向、社会貢献活動の促進



- ◇DX推進、従業員エンゲージメント向上
- ◇資本政策/財務戦略強化
- ◇ステークホルダーエンゲージメント充実

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

『モビリティ社会』と『製造業のものづくり』の未来に新しい価値をデザインし、持続可能な社会に貢献

## 最終年度(2024年3月期)計画

	売上高	1,700億円
	営業利益	50億円
	ROE	8%

# TCFD提言に基づく情報開示

- 自社サステナビリティサイトにて提言が求める情報開示に努める。
- 中長期的な温室効果ガスの排出削減目標の達成に向けて、2020年度以降のScope 1、2の算定を実施し、排出ガス低減の施策の検討や低減活動を順次進行中。

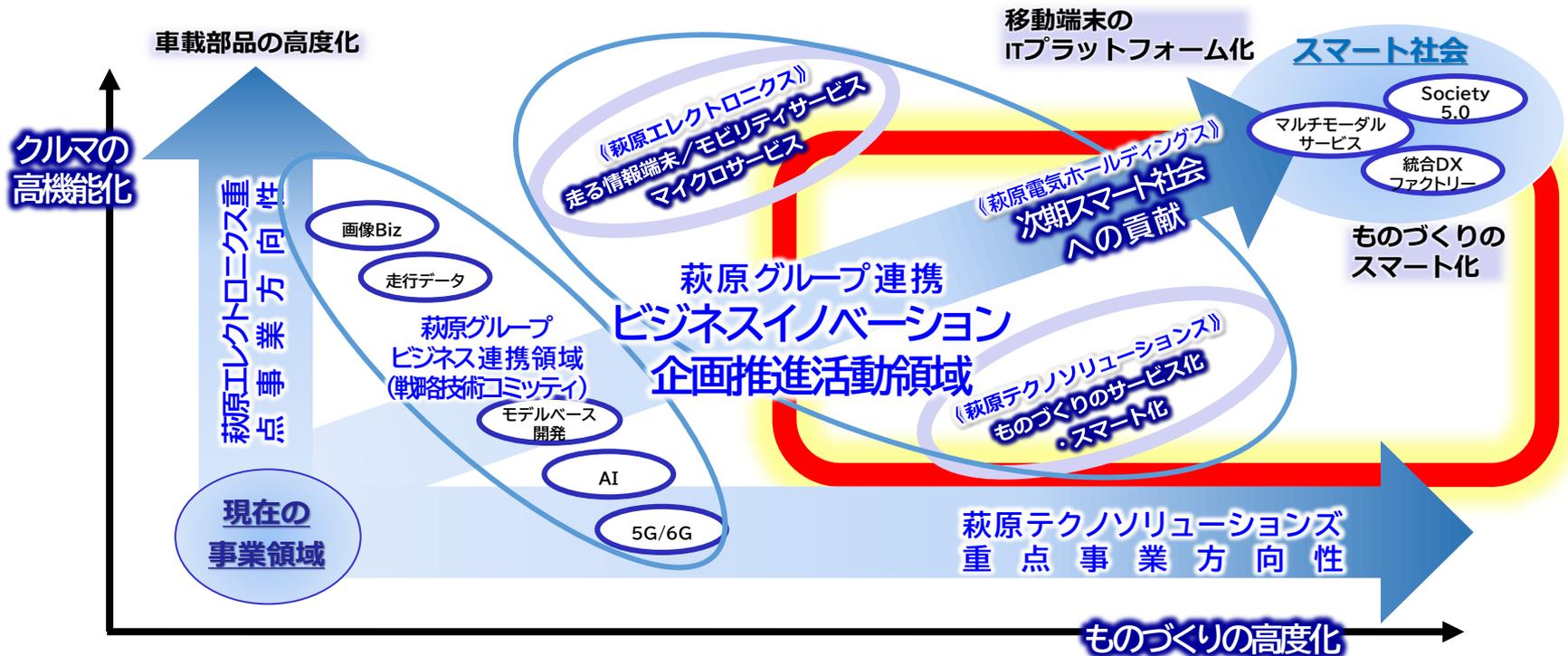
## 主な気候関連のリスクと機会

	種類	要因項目
主なリスク	政策・法規制	自動車関連顧客への生産・サービスへの命令および規制
		排出規制の強化
	技術	既存製品の低炭素技術への入れ替え、新規技術への投資失敗等
	評判	投資家、顧客の行動変化
	急性物理的リスク	異常気象甚大化
	慢性物理的リスク	平均気温上昇
主な機会	製品およびサービス	電動車の普及拡大
		EVシフトや省エネ対策に伴うビジネス変化
	市場	市場、トレンド変化
	レジリエンス	省エネ対策の推進

# 萩原エンジニアリング子会社化

- 中期経営計画の重点施策「高付加価値事業創出」の実行に向けたエンジニアリングビジネスの強化対策として、先端エンジニアリング技術を有する企業のM&Aを実施。
- 2022年9月30日付で社名を「萩原エンジニアリング株式会社」に変更し、子会社化。

## 萩原エンジニアリング M&Aの狙い

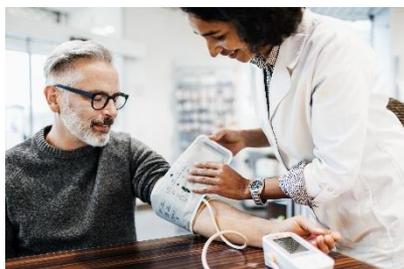


# 萩原エンジニアリング子会社化(保有技術領域)

- リチウムイオン二次電池など成長分野に貢献する生産システム構築技術やカスタム化技術を保有。



高度な技術を支える半導体需要の拡大



医療機器の高度化

## 電動車の普及

リチウムイオン二次電池関連

車載用電池 実績工程  
(セル組立・モジュール組立)



新技術発展による生産設備の新設



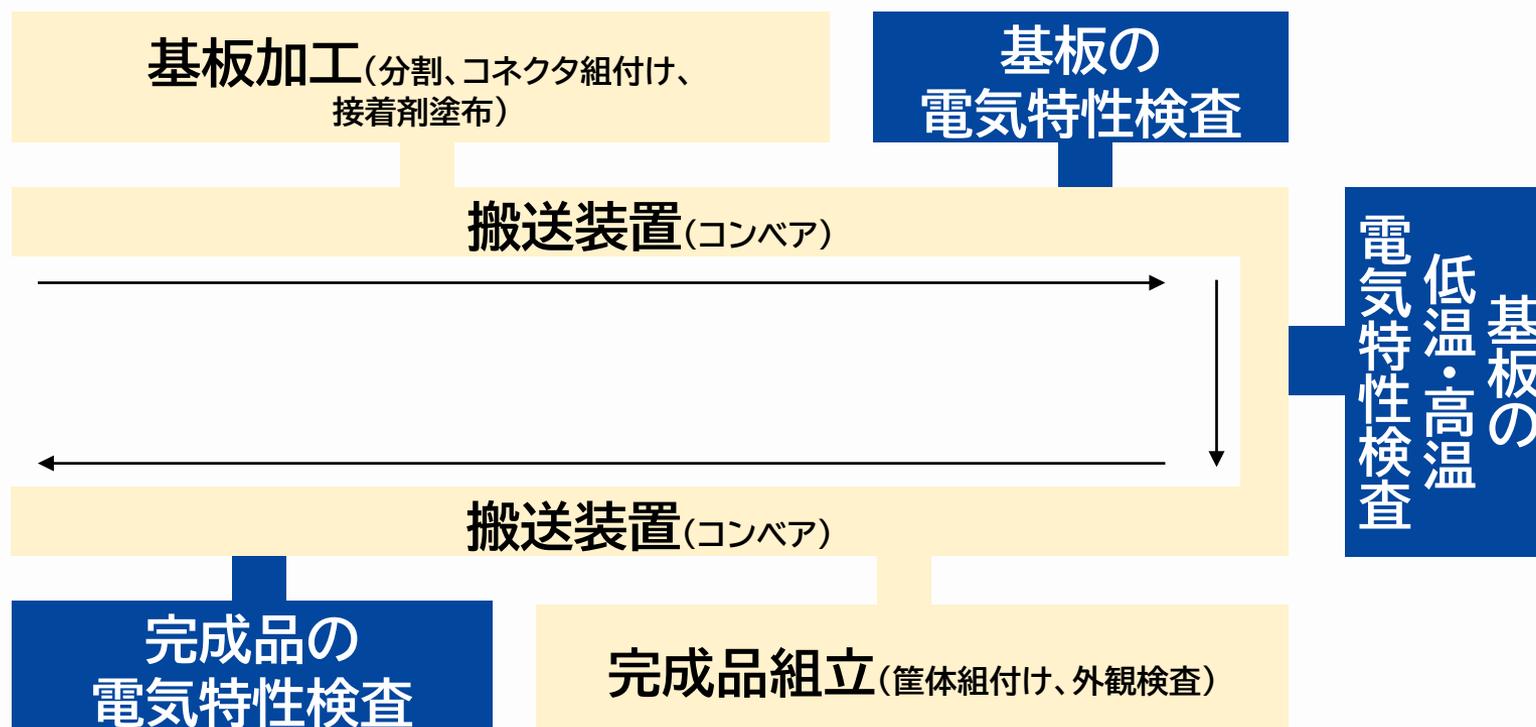
ロボット導入による省力化・自動化



# 萩原エンジニアリング子会社化(シナジー効果)

- 既存の計測ソリューションに、萩原エンジニアリングの生産ライン構築技術を加えた、自動車生産ラインにおける一貫したソリューション提供が可能。
- 双方の顧客基盤を活用し、販路拡大を狙う。

## 【ソリューション事例】



萩原テクノソリューションズ

萩原エンジニアリング



# 創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する  
ソリューションデザインカンパニー

引き続きご支援ご鞭撻を  
よろしくお願い申し上げます

本資料のうち、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基き当社で判断したものであります。  
予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。